

日本語初級教科書における 終助詞「ね」の機能と その中国語訳

熊鷹

✦要旨

本稿は、終助詞「ね」に関する日本語学の研究成果を中国の日本語教育の現場で実践に活かすための試みである。筆者は熊(2005)でポライトネス理論に基づいて終助詞「ね」の各用法のコミュニケーション機能を分析したが、本稿では学習者に教えるに際してより簡便、実用的な分類を目指し、また中国語訳の考察も視野に入れて中国語母語話者に「ね」を教えるにあたっての留意点を探っている。

✦キーワード

話し手情報、聞き手情報、共有情報、中国語訳

✦ABSTRACT

This paper has classified the usage of sentence-final particle "NE" appeared in the Japanese language textbook for primary level and discussed the communicative function of each use. Based on the classification and discussion, the Chinese translation of "NE" has also been taken into consideration in order to further investigate the area needs special attention when teaching language learners whose native language is Chinese.

✦KEY WORDS

Speaker's information, Listener's information, Shared information, Chinese translations

The Function and Chinese Translation of the Sentence-final Particle *NE* Appeared in the Japanese Language Textbooks for Elementary Level

XIONG YING

1 はじめに

終助詞「ね」は日本語の会話において大きな役割を果たしており、円滑なコミュニケーションを維持するためにはその適切な使用が重要である。しかし、「ね」の用法は複雑で、日本語教育の現場では「ね」の習得が難しいという声が少ない。初級教科書を見ると、典型的な「ね」の用法(例1-①、例1-②、例2、例3-①)もあれば、非典型的な「ね」の用法(例3-②)も出現していることがわかる。

- (1) A: 最近の学生はよく遊びますね-①。^[註1]
B: そうですね-②。 (『みんなの日本語』第32課 例文)
- (2) 王: 中国では、家族と過ごすいちばん大切な休みは春節です。
高橋: ああ、旧暦のお正月ですね。
王: ええ、そうです。 (『総合日語』第15課 ユニット2)
- (3) 王: 高橋さんはわたしよりずっと京劇に詳しいですね-①。どうして京劇が好きになったんですか。
高橋: きっと母の影響ですね-②。 (『総合日語』第14課 ユニット2)

上記の文には五つの「ね」が出現しているが、それぞれ担う意味が少しずつ異なっているため、学習者にとって理解しやすいものではない。また、応答文の中で「ね」を使ったり(例1「そうですね」、例3「きっと母の影響ですね」)、使わなかったり(例2「ええ、そうです」)するという使い分けも学習者にとって難しいものである。

本稿では、日本語初級教科書に出現する終助詞「ね」を収集し、その用法を分類・整理した。コミュニケーション上の観点から各用法の「ね」の役割について考察し、さらに、終助詞「ね」の各用法に対応する中国語訳を対照して、中国語母語話者に「ね」を教えるにあたっての留意点を探っていきたい。

2 調査資料

本稿では日本語の初級教科書2種類を調査する。一つは世界で最も広範に使用されている教科書『みんなの日本語初級本冊』(以下『みんな』と略す)で、その中の「文型・例文・会話」を調査対象とする。もう一つは中国人学習者向けに日中で共同製作され、中国の教育現場でも広く使用されている『総合日語』(以下『総合』と略す)で、初級に該当する第1冊と第2冊の本文を調査対象とする。終助詞「ね」の中国語訳は、『みんなの日本語初級翻訳・文法解説中国語版』と『総合日語教師用書』第1冊、第2冊によるものである。

用例に関しては、「ね」が間投助詞^[註2]の機能を果たす場合(例4)と、他の終助詞と共に起す場合(例5)を調査対象から除外する。なお、紙幅の関係で、フィラーの機能を果たす「ね」(例6)も外すこととする。

- (4) 高橋: 私より美咲のほうがずっと上手よ。きのうも、会話の授業で、
とっても自然でなめらかになったねってほめられてたし…。
渡辺: でもね…。 (『総合』第27課 ユニット2)
- (5) 王: 高橋さん、京劇、好きですよね。
高橋: ええ、大好きです。 (『総合』第14課 ユニット1)
- (6) 山田一郎: サントスさん、お仕事はどうですか。
ホセ・サントス: そうですね。忙しいですが、おもしろいです。
(『みんな』第8課 会話)

3 先行研究と本研究の分類

「ね」は基本的には、話し手が自分の認識を聞き手の認識と同じ水準まで高めようとするときに使われる(陳1987: 97)。その典型的な用法には「確認」(例7)と「同意要求」(例8)が挙げられる。

(7) A: 会議は10時からですね。 B: ええ、そうです。

(8) A: 毎日暑いですね。 B: そうですね。 (庵他 2000: 164)

(7) の「ね」は、話し手が自分の判断に確信が持たなくて、自分より確実に情報を持っていると想定できる聞き手に確認する機能を果たすが、(8) の「ね」は、話し手が自分と聞き手の意見が一致すると想定して、同意を求める機能を果たす。

上記の用法の他に、「ね」は、話し手だけが経験した事実や話し手の考えなど、話し手のほうが聞き手よりよく知っていることについて述べる際にも用いられると指摘されている (陳 1987, 神尾 1990, 金水 1993)。

(9) A: いま何時ですか。 B: ええと、7時ですね。 (金水 1993: 119)

この場合の「ね」は、時計を見るという過程を経て確認した情報と、「7時です」という表現を一致させて答えていることを表すと説明されている (金水 1993)。

本稿では熊 (2005) に基づいて、話し手と聞き手とどちらが情報を多く持っているかによって、「聞き手情報」「話し手情報」「共有情報」に大きく三分類する。「確認」用法 (例7) の「ね」は、聞き手が話し手より情報の認識の度合いが高いため、「聞き手情報」と捉える。「同意要求」用法 (例8) の「ね」は、話し手が聞き手と情報を共有しており、両者が同じ程度の情報量を持っているため、「共有情報」と捉える。(9) のような、話し手のほうが聞き手よりよく知っている情報については、「話し手情報」と捉える。

日本語初級教科書には上記以外の終助詞「ね」の用法も出現している。用例を考察した結果をまず表1に示し、次節で各用法を順に取り上げ、それぞれのコミュニケーション機能及び中国語訳について考察する。

表1 「ね」の用法

情報の持ち主	用法	例文
聞き手情報	確認	やまと美術館です <u>ね</u> 。
共有情報	同意要求	暑い <u>ですね</u> 。
	注目表示	それはたいへんでした <u>ね</u> 。
	同意表明	そうです <u>ね</u> 。
話し手情報	見せかけの同意要求	大切にします <u>ね</u> 。
	自己確認	僕はあまり考えたこと、ありません <u>ね</u> 。
	回想	あまり売れませんでした <u>けど</u> ね。

4 日本語初級教科書における「ね」の用法とその中国語訳

4.1 聞き手情報—「確認」の「ね」

「聞き手情報」は、聞き手は確かな情報を持っているが、話し手は不確かな情報しか持っていない。話し手は「ね」の使用によって、聞き手に情報を確かめて不確かな情報を確実な情報にしようとする。この場合の「ね」は「確認」の発話機能を果たす。

(10) 高橋: 演目は何ですか。

王: 「白蛇伝」という京劇です。知っていますか。

高橋: ええ。人間になった白蛇と青蛇の話ですね。

王: そうです。よく知っていますね。 (『総合』第14課 ユニット1)

「高橋さん」は「白蛇伝」という京劇について知識はあるが、不確かなため、その情報の正しさを「王さん」に確かめる。情報が正しいかどうかの判断は聞き手に委ねられており、この場合、聞き手が「そうですね」と応答するのは不自然で、「そうです」と応答することが要求される。

次に、「ね」に対応する中国語訳を考察する。中国語訳に関しては、「ね」に対応する語気助詞^[註3]が現れるかどうか、現れるとしたら、どのような語気助詞が現れるのかに注目する。語気助詞が用いられない場合は、「マーカーなし」とみなす。「確認」の「ね」に対応する中国語訳を見ると、疑問文^[註4]になるものが多い。その中で推測の意を含めた訊ね方の語気助詞“吧”に訳された例が最も多く、2種類の教科書とも「確認」の総例文数の60%を占めている。(10)も“吧”に訳されている。

(10) 高桥：知道，是变成人的白蛇和青蛇的故事吧。

「ね」の「確認」用法は、中国語にそれに相当する語気助詞があるため、学習者にとって理解しやすいと思われる。また、聞き手に配慮したり、仲間意識を形成しようとしたりするコミュニケーション機能は働かないため、中国人学習者に教えるにあたっての特別な問題点はないと考えられる。

4.2 共有情報—「同意要求」「注目表示」「同意表明」の「ね」

「共有情報」は、話し手が聞き手と情報を共有しており、両者とも確かな情報を持っている。情報が聞き手の領域に属するかどうかによって二つに分けられる。下記の例の応答の違いに注目する。

(11) A：太郎ちゃんは外で遊ぶのが好きですね。

B：ええ、そうですね。^[註5]

(12) A：太郎ちゃんは外で遊ぶのが好きですね。

B：ええ、そうなんです。

「太郎ちゃんは外で遊ぶのが好きだ」という情報はAさんにとってもBさんにとっても確かな情報である。応答の違いから、Aさん、Bさんと、話題になった「太郎」との関係について次のことが言えるのではないだろうか。(11)は、AさんとBさんはどちらも幼稚園の先生^[註6]というような設定が想定される。「太郎」はAさん、Bさんのどちらの身内でもなく、心理的な距離は同じであると

考えられる。それに対して、(12)は、Aさんは幼稚園の先生で、Bさんは太郎の母親というような設定が想定される。「太郎」はBさんの領域に属しており、Bさんのほうが「太郎」のことをよく知っているのが当然の立場にある。この場合、Bさんが「ええ、そうですね」と応答すると、息子と距離を置いて他人のように見ているような印象を与えてしまう。

日本語は、自分の領域に属するかどうかによって発話に変化するという特徴を持っているが、そのような言語文化を持たない中国語母語話者にとっては理解しにくいものである。(11)(12)の中国語は、「太郎」が自分の領域に属するかどうかに関係なく、“是啊”(そうですね)と“是的”(そうなんです)で応答することが可能である。

本稿では会話における「ね」の用法を正しく把握するために(11A)と(12A)を分けて考えたい。(11A)の「ね」の用法を「同意要求」と捉え、(12A)は聞き手の領域に関するものについて論じるという点から「注目表示」と捉えることとする。また、(11B)は(11A)が述べた情報に同意を示すという点から「同意表明」と捉えることとする。以下「同意要求」「注目表示」「同意表明」の三つの用法について考察する。

4.2.1 共有領域—「同意要求」の「ね」

目前の事、客観的事実について話し手と聞き手が同じ情報、判断を共有していることをお互いに確かめ合うときに使う。話し手は「ね」の使用によって、聞き手に同意や共感を求めるため、この場合の「ね」は「同意要求」の発話機能を果たす。

(13) A：暑いですね。窓を開けましょうか。

B：すみません。お願いします。

(『みんな』第14課 例文)

「同意要求」の「ね」は、(13)のように話し手が自分の感想やコメントを述べるときに使うことが多いが、情報を述べるときにも使うことがある。

(14) <『竹取物語』の芝居が終わった>

趙：おもしろかったですね①。

渡辺：ええ、高橋さんのかぐや姫、きれいでしたね②。

趙：いろいろな男の人がプレゼントをあげましたけど、だれとも結婚しませんでしたね③。 (『総合』第15課 ユニット2)

(14) の会話には「ね」が三回出現しており、いずれも「同意要求」の機能を果たす。「おもしろかったです」と「きれいでした」はどちらも評価を表すものだが、「だれとも結婚しませんでした」は感想を直接的に述べるのではなく、情報を述べて同意を求める文である。評価を述べるか情報を述べるかは、日本語ではその違いが形式的に示されることはないが、中国語では評価を述べる文は、(13') のように語気助詞“啊”（語気を和らげたり、感情色彩を濃くしたりする機能を持つ）になるものが多い。一方、情報を述べる文は、語気助詞が消え、(14') のように「マーカーなし」の文になる。

(13') 真热啊。打开窗户吧？

(14') 那么多男人都给她送礼物，可她没有和任何人结婚。

日本語では、話し手は常に聞き手を意識している。聞き手と情報を共有していると判断したら、「ね」を使用して聞き手と情報を共有していることを積極的に表明して相手との一体感を形成しようとする傾向がある。この場合の「ね」は必然的に付加しなければならない。それに対して、中国語では、聞き手が情報を持っているか否かに関係なく、話の内容によって語気助詞を使ったり使わなかったりする。評価を述べる際には語気助詞を使用するが、情報を述べる際には語気助詞を使用せず、話し手が一方的に話を進める傾向がある。そのため、情報を述べる際の「ね」の用法を中国人学習者に教えるにあたっては母語の干渉を避けるよう注意が必要と思われる。

4.2.2 聞き手領域—「注目表示」の「ね」

聞き手の領域に関する情報であるが、話し手がそれを察して、聞き手の認識

を先取りして発言する場合に、「注目表示」の「ね」を用いる。聞き手が当然知っていること（例15）もあれば、話し手に言われて初めて気づくこと（例16）もある。話し手としては、聞き手は自分自身に関する情報は当然知っているという前提で発言するため、「注目表示」の「ね」を「共有情報」のカテゴリーに入れることにした。

(15) 中村課長：バスの事故ですか。

ミラー：いいえ。交差点でトラックと車がぶつかって、バスが動か
なかったんです。

中村課長：それは大変でしたね。 (『みんな』第39課 会話)

(16) 王：先生、歩くのがお速いですね。

遠藤先生：そうですか。いつもこのくらいです。

(『総合』第20課 ユニット2)

「注目表示」は、話し手が聞き手の認識を先取りし、話し手のほうが聞き手より情報を多く握っているという認識が強いため、学習者が「ね」を使用せず、自分の観察・判断をそのまま述べる誤用例が多く見られる。

(17) あれ、髪が短くなりました。美容院へ行きましたか。

(18) きれいなブラウスです。新しいですか。 (大曾 1986: 92)

ここで何故「ね」が必要とされるのかについては、コミュニケーション機能から説明すれば、学習者には理解しやすいと思われる。日本語では聞き手の領域に属するものについて述べる際に、話し手が「ね」を使わず、自分の判断をそのまま述べると、相手の領域を侵害してしまうことになる。「ね」を使うことによって自分の判断を押しつける印象が軽減し、相手に配慮している印象を与えるため、「ね」の使用が必須とされるのである。

「注目表示」の「ね」がどういう場合に使われるのか考察すると、「同意要求」の「ね」と同様に、評価を表す場合（例15、例16）と情報を述べる場合（例19）に用いられることがわかった。

- (19) A : 渡辺さんは時々大阪弁を使いますね。大阪に住んでいたんですか。
 B : ええ、15歳まで大阪に住んでいました。 (『みんな』第26課 例文)

評価を表す場合の「ね」は中国語に訳すと、「同意要求」と同様に語気助詞“啊”(または“啊”の音便の“呀”)の文になることが多いが、情報を述べる場合の「ね」は「マーカークなし」の文になる。

- (15') 中村科长 : 那可真让人着急啊。
 (16') 王 : 老师, 您走得可真快呀!
 (19') A : 渡边小姐说话有时候用大阪方言。在大阪住过吗?

ここで、「同意要求」の用法も含めて、「ね」に対応する中国語の語気助詞“啊”について考察しておきたい。下記の文は日本語学習歴5カ月の中国人学習者が書いた作文の結びの部分である。いくつかの誤用があったが、最後の文の終助詞に注目する。

- (20) 将来日本語が上手になったら日本の大学院に入るつもりです。日本で電子工学を勉強しようと思っています。それから、日本でおおきい家をたてて、家族と一緒にすんでいます。私たちは毎日幸せに暮らしています。ああ、よかったですね。

「ね」を用いるのは非常に不自然であるが、学習者は何故「ね」を使ったのだろうか。その原因は“啊”による母語干渉だと思われる。“啊”は「ね」と同じように、複数の用法を持っている。その中で最も特徴的な用法は感嘆の意を表すことで、その用法では独話や独話に近い文で用いることが可能である。一方、「ね」は通常、独話で用いることは認められず、聞き手の存在を必要とする^[註7]。

4.2.3 「同意表明」の「ね」

「ね」は相手の意見や考えに賛成するときにも用いられる。この場合の「ね」は「同意表明」と言われている。用例を考察すると、「そうですね」「いいです

ね」のような定型的な表現でよく出現することがわかる。

- (21) 李 : 宝くじに当たったら、すぐお金持ちになれますからね。
 高橋 : そうですね。 (『総合』第22課 ユニット1)
 (22) 松本 : ちょっとビールでも飲みませんか。
 サントス : いいですね。 (『みんな』第21課 会話)

中国語には、上記の定型的な表現に対応する表現があるため、「同意表明」の「ね」は、理解しやすいと思われる。

- (21') 高橋 : 是啊!
 (22') 桑托斯 : 好啊。

4.3 話し手情報—「見せかけの同意要求」「自己確認」「回想」の「ね」

ここまで「聞き手情報」と「共有情報」の「ね」について考察した。これらの「ね」の使用はすべて必須であるが、次に考察する「話し手情報」の「ね」の使用は任意で、取り去っても話し手の伝達内容は阻害されない。聞き手の意向を考慮するかどうかによって二つに分類する。

- (23) 山田 : どこへ行きますか。
 ミラー : そうですね。きょうは日本料理が食べたいですね。
 山田 : じゃ、「つるや」へ行きましょう。 (『みんな』第13課 会話)
 (24) ワット : 昔「上手な整理の方法」という本を書いたことがあるんです。
 大学職員 : へえ、すごいですね。
 ワット : あまり売れませんでしたけどね。 (『みんな』第38課 会話)

(23) では話し手が「ね」を用いて相手の同意を求める形で自分の意向を表明しているので「見せかけの同意要求」と呼ぶことにする。(24)の「ね」は話し手自身の認識との一致を示すもので、前者と分けて考察する。

4.3.1 「見せかけの同意要求」の「ね」

「見せかけの同意要求」の「ね」は次の三つの場面に出現することが観察できた。「行為要求」と「意志表示」、「応答」の場合である。

① 「行為要求」の場合に用いられる「ね」

「ね」は働きかけや勧めのような「行為要求」の文にも使われる。

(25) 木村：東京へ行っても、大阪のことを忘れないでくださいね。

ミラー：もちろん。 (『みんな』第25課 会話)

話し手は、「ね」をつけることによって、聞き手から同意を得られることを期待する印象を与え、要求の働きかけを軽減させる。中国語にも同じ用法の語気助詞（“吧”“啊”“哦”）があるため、この用法は中国語人学習者にとっては理解しやすいと思われる。

(25') 即使去了东京也不要忘了大阪哦。

② 「意志表示」の場合に用いられる「ね」

自分の行動を宣言するときにも、相手の共感を求める形で「ね」を使うことがある。

(26) 高橋：わたしは小さいぬいぐるみをもらいました。かわいいですよ。
ほら。

王：あ、それはわたしが買ったプレゼントです。

高橋：本当？じゃ、王さんがくれたぬいぐるみ、大切にしますね。

(『総合』第15課 ユニット2)

ここでは、「ね」を用いることによって、話し手と聞き手との間に話題への一体化・共有化が生じることが図られる。中国語に訳すと、「マーカークなし」になるため、中国人学習者にとっては、理解しにくい「ね」の用法の一つだと思

われる。この用法を教えるにあたっては、「ね」の使用が話し手と聞き手の連帯意識をもたらすというコミュニケーション機能から説明する必要がある。

(26') 高橋：真的？那我得好好珍藏你给我的这件礼物。

③ 「応答」の場合に用いられる「ね」

特定の疑問文に対する応答文の中でも「ね」が用いられることが観察された。これも学習者にとって理解しにくい用法である。

まず、情報が聞き手側に属す場合に用いられる例が挙げられる。

(27) A：先生、ハンスは何の病気でしょうか。

B：インフルエンザですね。 (『みんな』第32課 例文)

聞き手側の情報であるが、話し手が聞き手側より確かな情報を持つことは非常に特殊なケースである。ここでの「ね」の使用は必須ではないが、取り去ると、聞き手の領域を脅かす危険性がある。この場合の「ね」は聞き手に配慮する機能を果たす。

次は、情報が話し手と聞き手のどちらの領域にも属さない場合である。

(28) (関西空港について話している)

シュミット：すごい技術ですね。でも、どうして海の上に造ったんですか。

松本：日本は土地が狭いし、それに海の上なら、騒音の問題がありませんからね。 (『みんな』第37課 会話)

「ね」を取り去ることは可能であるが、そうすると、話し手が聞き手より情報を多く持っているという一種の優越感を聞き手に与えてしまう恐れがある。「ね」の使用は聞き手に配慮する機能を果たす。

話し手が自分側の情報を提供する際にも「ね」を用いることがある。

- (29) 山田：どこへ行きますか。
ミラー：そうですね。きょうは日本料理が食べたいですね。
山田：じゃ、「つるや」へ行きましょう。 (『みんな』第13課 会話)

二人と一緒に食事に行くという会話である。「ね」をとっても文は成立するが、話し手自身の主張のみとなり、聞き手への配慮が失われる。

上記の「ね」の中国語訳はいずれも「マーカーなし」になる。特定の疑問文の応答文で「ね」を用いるのは中国人学習者にとって理解しにくいいため、この用法を教えるにあたっては、「ね」の使用が聞き手に配慮する機能を果たすというコミュニケーション機能から説明する必要がある。

- (27) 是流行性感冒。
(28) 因为日本国土狭小，而且建在海上没有噪音的问题。
(29) 是啊，今天我想吃日本菜。

4.3.2 「自己確認」の「ね」と「回想」の「ね」

聞き手の意向を考慮しない「ね」に関しては「自己確認」(例30)と「回想」(例31)の「ね」が観察された。野田(2002)によると、「自己確認」とは「自分の結論との一致を示す」ことで、「回想」とは「自分の記憶との一致を示す」ことである。どちらも、自分の頭の中で確かめてから聞き手に話し、聞き手に対する働きかけは弱い。

- (30) 小川：貯金はしないんですか。
鈴木：貯金ですか。僕はあまり考えたこと、ありませんね。
(『みんな』第42課 会話)
- (31) ワット：昔「上手な整理の方法」という本を書いたことがあるんです。
大学職員：へえ、すごいですね。
ワット：あまり売れませんでしたけどね。 (『みんな』第38課 会話)

上記の文では、「ね」を取り去っても話し手の伝達内容は阻害されないが、神

尾(1990)が指摘したように「仲間意識または連帯感を表現して、発話に丁寧さを加える働き」を失う。

中国語訳はどちらも「マーカーなし」の文になる。

- (30) 鈴木：存钱吗？我很少考虑。
(31) 瓦特：可是没怎么卖出去。

上記のような文がどういう場合に使われるのかについて、金水(1993)は、「ね」を用いるには、話し手の頭には確認するという認識作業や記憶の検索作業が必要になると指摘している^[註8]。そのような確認作業が入りこむ余地のない単純な知識には「ね」は付加しにくいのである。

- (32) A：あなたのお名前は？
B：中村太郎です（?ね） (金水1993:119)

「自己確認」と「回想」の「ね」を学習者に教える際には、(32)のような文との違いを理解させておかないと、「ね」を濫用する危険性があると思われる。

4.4 本節のまとめ

本節をまとめると、表2のようになる。まず、情報の持ち主によって、「ね」は「聞き手情報」「共有情報」「話し手情報」に三分類できる。「聞き手情報」には「確認」の用法があり、「共有情報」には「同意要求」「注目表示」「同意表明」の用法がある。これらの「ね」の使用は必須である。一方、「話し手情報」には「見せかけの同意要求」と「自己確認」「回想」の用法がある。これらの「ね」の使用は任意である。

各用法の理解の難易度に関しては、表3の「ね」の中国語訳を合わせて考える。理解しやすいのは「確認」「同意要求」「同意表明」である。「確認」と「同意表明」に関しては、「ね」に対応する中国語語気助詞（推測の意を含めた訊ね方の“吧”と語気を和らげる機能を果たす“啊”）がある。「同意要求」に関しても、対応する中国語語気助詞“啊”があるので理解しやすいが、情報を述べる際には

表2 「ね」の用法と出現数

情報の持ち主	用法	例文	必須か	理解難易	『みんな』	『総合』
聞き手	確認	やまと美術館ですね。	必須	易	10例 (7.46%)	20例 (12.5%)
共有	同意要求	暑いですね。		易	50例 (37.31%)	52例 (32.5%)
	注目表示	それはたいへんでしたね。		難	50例 (37.31%)	35例 (21.88%)
	同意表明	そうですね。		易	14例 (10.45%)	39例 (24.38%)
話し手	見せかけの同意要求	大切にしますね。	任意	難	8例 (6.0%)	12例 (7.5%)
	自己確認	僕はあまり考えたこと、ありませんね。			1例 (0.75%)	2例 (1.25%)
	回想	あまり売れませんでしたけどね。			1例 (0.75%)	0例 (0%)
合計					134例 (100%)	160例 (100%)

「マーカールなし」(表3では「なし」と略)になるため、理解しにくい。そのため、相手と情報を共有している場合に、情報を述べる文でも「ね」を使わなければならないことを学習者に理解させておく必要があると思われる。

「行為要求」の場合を除いた「話し手情報」の三用法と「注目表示」も理解しにくいものである。「話し手情報」の中国語訳は基本的に「マーカールなし」になる。「注目表示」の場合は、話し手が聞き手の認識を先取りし、話し手のほうが聞き手より情報を多く握っているという認識が強いため、学習者は「ね」を使わず、自分の観察・判断をそのまま述べることが多い。これらの中国語母語話者の理解しにくい用法に関しては「ね」のコミュニケーション機能から教える必要があると思われる。

表3 「ね」の中国語訳

用法	教材	啊	吧	吗	了	的	呢	嘛	哦	哟	なし	合計
確認	み	2	6	1	0	0	0	0	0	0	1	10
	総	7	12	1	0	0	0	0	0	0	0	20
同意要求	み	20	3	0	7	9	1	0	0	0	10	50
	総	18	4	1	9	2	0	2	0	0	16	52
注目表示	み	30	3	0	1	1	0	1	0	0	14	50
	総	7	1	0	6	3	0	3	0	0	15	35
同意表明	み	10	0	0	0	1	0	0	0	0	3	14
	総	22	1	0	3	9	0	1	0	0	3	39
見せかけの同意要求	み	1	0	0	1	0	0	0	1	0	5	8
	総	1	3	0	0	0	0	0	0	1	7	12
自己確認	み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	総	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
回想	み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	総	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		118	33	3	27	25	1	7	1	1	78	294

5 『みんな』と『総合』における「ね」の解説と本研究の提案

『みんな』には「ね」の解説は2箇所あり、「ね」のみを扱った項目と「そうですね」を扱った項目がある。解説は中国語であるが、日本語に訳すと以下のようになる。

- ① 「ね」は話し手の気持ちを表す。相手に同情を表す気持ちや相手の同意を期待する気持ちが「ね」に含まれる。後者は確認の機能を果たす。

(『みんな』第4課)

② 「そうですね」は、話し手が自分も知っていること或いは思いついたことを聞き手に言われたときに、同意または同感を示す文である。

(『みんな』第19課)

「そうですね」を定型句で取り上げて説明しているのはわかりやすいが、①の「ね」の解説は、曖昧で厳密性に欠く印象を受ける。また、「確認」と「同意要求」の用法が一緒に扱われているのも問題である。

『総合』では「ね」に関する解説は次の4種類に整理されている。解説は中国語であるが、日本語に訳すと以下のようになる。

① 話し手はある程度聞き手の回答を予測しながら、聞き手に確認したり同意を求めたりする。この場合には「か」を使わず「ね」を使う。

(『総合』16課)

② 聞き手に属する情報についてコメントする。褒める、またはけなすことが多い。

(『総合』16課)

③ 話し手と聞き手が共通の認識に達した場合に用いられる。(『総合』17課)

④ 「Vて」または「Vないで」の後に「ね」をつけると、働きかけを和らげる。また、念を押すニュアンスがある。一般的には親しい人の間で使う。なお、女性が使うことが多く、男性は「よ」を使う。(『総合』25課)

『総合』は『みんな』と比べて用法の解説が詳しい。上に挙げた①は本研究の「確認」用法に該当、②は本研究の「注目表示」の範疇に入り、③は「同意要求」に該当、④は「見せかけの同意要求」の範疇に入る。

2冊の教科書の解説を踏まえた上で、「ね」の解説について本研究では次のように提案したい。まず、聞き手が情報を持っているかどうかによって大きく二分類できる。聞き手が持っている場合には「ね」の使用は必須であるが、持っていない場合は任意である。前者には「確認」「同意要求」「同意表明」「注目表示」の用法がある。「確認」と他の三用法の違いは話し手が持っている情報がかどうかにある。なお、「注目表示」は母語の干渉による誤用が起きやすいため、聞き手との連帯感をもたらすというコミュニケーション機能から学

習者に理解させる必要がある。一方、任意の「ね」には「見せかけの同意要求」「自己確認」「回想」がある。「見せかけの同意要求」も聞き手への配慮を果たすというコミュニケーション機能から理解させる必要がある。「自己確認」と「回想」については、話し手の頭に確認するという認識作業や記憶の検索作業が入りこむ余地のある場合にしか使えないことを学習者に認識させておく必要がある。

6 おわりに

終助詞「ね」は初級段階から導入されるが、中級に進んでも正しく使えない学習者が少なくない。本稿で示した指針を、筆者の今後の教室活動に活かして、教授法の向上を図っていきたい。

〈北京郵電大学〉

〈付記〉

本研究は2009年学習院大学東洋文化研究所東アジア〈未来知〉研究教育プログラムの助成を受けました。筆者は2009年7月10日～8月28日の間、同プログラムの客員研究員として日本へ招聘いただき、本研究を行いました。研究の場をご提供くださった学習院大学東洋文化研究所の方々及び学習院大学文学部日本語日本文学教授の前田直子先生に心より御礼を申し上げます。

注

[注1] …… 終助詞「ね」が二つ以上現れる会話について、説明しやすいうちに「ね」の後に「-①」「-②」のように番号を振る場合がある。

[注2] …… 問投助詞とは、文中の語句の切れ目で、語勢を加え、語調を整えて余情を添える助詞のことである(『広辞苑』第5版)。

[注3] …… 語気助詞は中国語学の用語で、終助詞に相当するもの。どのようなものが語気助詞であるかに関しては、李(1993)と劉・潘・故(2003)を参考にしている。

[注4] …… 疑問の意味を担う語気助詞(“吧”“啊”“吗”)と訳される。

[注5] …… 出典がないのは作例。

[注6] …… Bさんが太郎の受け持ちで太郎を自分の領域の人間だと思うなら、(12)の

応答もあり得る。これは本稿の観点を裏付けることにもなる。

[注7] …… ただし、全ての文章には使えないわけではない。今回の調査では『総合』の読解文で終助詞「ね」が用いられる例が観察された。手紙文と報告書のコメント文およびインターネット掲示板の返信文で、これらの文章のスタイルはいずれも聞き手を意識するものであることが特徴的である。

[注8] …… 金水（1993）では「検索・計算過程」という用語を使っているが、やや抽象的で、本稿では日本語記述文法研究会（2003）の記述を参考にしてている。

参考文献

- 庵功雄・中西久実子・山田敏弘・高梨信乃（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（松岡弘監修）pp.164-166. スリーエーネットワーク
- 大曾美恵子（1986）「誤用分析「今日はいいい天気ですね。」—「はい、そうです。」」『日本語学』9月号,pp.91-94.
- 神尾昭雄（1990）『情報のなわ張り理論—言語の機能的分析』大修館
- 金水敏（1993）「終助詞ヨ・ネ」『言語』22(4),pp.118-121. 大修館
- 陳常好（1987）「終助詞—話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞」『日本語学』10月号,pp.93-109. 明治書院
- 日本語記述文法研究会（編）（2003）『現代日本語文法4 第8部モダリティ』pp.256-258. くろしお出版
- 野田春美（2002）「終助詞の機能」宮崎和人他（編）『モダリティ』pp.261-288. くろしお出版
- 李臨定（1993）『中国語文法概論』（宮田一郎訳）pp.33-35. 光生館
- 劉月華・潘文娉・故鱗（2003）『實用現代漢語語法』pp.410-432. 商務印書館
- 熊鷹（2005）「「ね」のコミュニケーション機能—日本語初級教科書と自然会話における「ね」に注目して」『学習院大学大学院・日本語日本文学』創刊号,pp.98-113.

教科書

- スリーエーネットワーク（編）（1998）『みんなの日本語』（初級Ⅰ・Ⅱ本冊）
- スリーエーネットワーク（編）（1998 / 1999）『みんなの日本語翻訳・文法解説 中国語版』（初級Ⅰ・Ⅱ）
- 彭広陸・守屋三千代（監修）（2004 / 2005）『総合日語』（第1・2冊）北京大学出版
- 彭広陸（編）（2006 / 2007）『総合日語教師用書』（第1・2冊）北京大学出版